

病床機能分化・連携推進基盤整備事業 調書〔病床転換用〕

平成30年度 宮城県地域医療構想調整会議(大崎・栗原区域)	資 料 5
平成31年2月7日	


事業実施主体名	大崎市民病院岩出山分院		
構想区域（二次医療圏）	大崎・栗原	所 在 地	大崎市岩出山字下川原町84-29

調書作成年月日	平成30年10月2日
調 書 作 成 者	大崎市民病院岩出山分院管理課

宮 城 県 地 域 医 療 構 想 と の 関 係

1 自院が所在する構想区域における病床機能報告結果と2025年の必要病床数

〈大崎・栗原区域〉

病床機能	病床機能報告 ＜2017年度＞	本事業の方向性	必要病床数 ＜2025年＞
高度急性期	51		182
急性期	1,583		567
回復期	133		669
慢性期	815		484
計	2,582		1,902

2 自院の現状（自院患者の動向分析、区域において担う自院の役割等）

岩出山分院は地域密着型の病院として、主に慢性期疾患を主体とする高齢者の一般医療の他、二次救急を含む初期医療や在宅医療を担っています。内科、外科を中心とし、常勤医師2人と大崎市民病院本院等からの診療応援により地域医療を確保しています。

岩出山地域の人口は年々減少傾向にあるものの65歳以上の高齢者人口は増加傾向にあり、入院、外来共に約8割が岩出山地域住民となっています。

入院においても急性期を中心とする大崎市民病院本院からの転院受入れや在宅からの肺炎、尿路感染症等、高齢者に多い疾患の患者が多くなっており、今後も増加が見込まれます。

3 事業の必要性

今後、岩出山地域は、高齢者が一層増加するため、脳卒中や大腿骨頸部骨折等のADL機能の回復を必要とする入院や肺炎や尿路感染症等、高齢者に多い疾患の増加が見込まれます。

当該地域において独居老人や老老介護世帯が安心して暮らせ、また、必要な時に入院できるように地域包括ケア病床の整備も重要な課題の一つとなっています。

現在の岩出山分院には、リハビリテーション機能がなく、在宅に退院する患者等に対し、十分な機能回復ができないまま退院又は転院いただくケースも多く、在宅復帰支援機能の整備が急務となっています。

4 事業実施により目指す状況（自院患者の動向予測、区域で担う自院の役割の変化、地域医療構想の推進内容等）

在宅療養の緊急時の受入れや急性期を終えた患者の機能回復を行う地域包括ケア病床を設置することで、大崎・栗原区域に不足する「回復期」機能の充実を図ります。

また、高度急性期・急性期医療を担う大崎市民病院本院から、在宅復帰に向けた入院患者を受入れ、日常生活動作等の改善につながる質の高いリハビリテーションを提供します。

こうした状況を踏まえ、「新大崎市民病院改革プラン」において、大崎市民病院本院との機能分担を図り、大崎・栗原医療圏における「回復期」機能を担うこととしております。

5 その他（地域の事情に即し特別に考慮した事項など）

大崎市民病院本院との機能分担を図りながら、急性期治療を経過した患者や、療養を行っている患者の受入れを行います。地域包括ケア病床の整備を行い、地域包括支援センター及びケアマネージャー等と連携し、在宅復帰の支援とともに在宅医療における急変患者等の入院病床機能を担います。

事 業 概 要

1 病床転換計画

○ 整備する回復期病床 ➡ **10** 床

〈病院全体の病床機能別の許可病床数〉 H30.10.1現在

H31.10.1（予定）

病床転換前（合計病床数〔 40 〕床）			病床転換後（合計病床数〔 40 〕床）		
病床の機能	入院基本料・特定入院料	病床数	病床の機能	入院基本料・特定入院料	病床数
高度急性期			高度急性期		
急性期	急性期一般入院基本料5	40	急性期	急性期一般入院基本料5	30
回復期			回復期	地域包括ケア入院医療管理料1	10
慢性期			慢性期		

2 事業内容

〔全体計画〕 事業着手 H30.7 ～ 事業完了 H31.3 ～ 転換した病床での診療開始 H31.10

	施設整備	回復期病床への転換	事業費	（うち補助金申請予定額）	事業種別	対象面積	事業期間
			円	円		m ²	～

○	施設整備	医学的リハビリテーション施設	事業費	(うち補助金申請予定額)	事業種別	対象面積	事業期間		
			173, 772, 000 円	27, 639, 000 円	増改築	266. 4 m ²	H30. 7	～	H31. 3
			整備する施設						
			機能訓練室、スタッフルーム、評価室、器具庫、身障者用トイレ等						
			届出（予定）リハビリテーション料						
			脳血管疾患等リハⅡ、運動器リハⅡ、呼吸器リハⅠ、廃用症候群リハⅡ						

○	設備 整備	医療機器等 の購入	事業費	(うち補助金申請予定額)	事業期間
			23,640,336 円	5,250,000 円	H30.10 ～ H31.3
			購入予定の主な医療機器等		
			平行棒、訓練台、リハビリベット、電動式キッチン装置		

※事業期間が年度を跨る場合の 出来高見込み及び補助申請の予定	平成30年度の見込み		平成〇〇年度の見込み	
	出来高 （％）	補助金申請額 （円）	出来高 （％）	補助金申請額 （円）
施設整備〔回復期病床への転換〕				
施設整備〔医学的リハビリテーション施設〕	100	27,639,000		
設備整備〔医療機器等の購入〕	100	5,250,000		

3 特記事項（効率的な事業実施のための取組、他の補助金等の活用の有無やその内容など特筆すべき事項）

平成29年6月、病院事業内に岩出山分院リハビリテーション事業運営検討チームを設置し、施設規模・配置・備品等や事業運営体制について検討を進めています。

他の補助金の活用はありません。地方債（病院事業債）を充当予定です。

※ 調書作成に当たっては、事業実施主体の今後の取組方針が分かるよう具体的に記載すること

なお、次の観点は必須とする ○公立病院：新公立病院改革プランとの整合性の観点 ○公的病院：公的医療機関等2025プランとの整合性の観点 ○本院・分院を持つ病院：各病院の関連性の観点